

日清製粉グループ 第1四半期連結累計期間決算、通期連結業績予想

[通期予想を上方修正]

売上高	6,700億円（当初予想差+100億円、+1.5%）
営業利益	292億円（当初予想差 +10億円、+3.5%）
経常利益	313億円（当初予想差 +13億円、+4.3%）
親会社株主に帰属する当期純利益	193億円（当初予想差 +12億円、+6.6%）

2022年3月期第1四半期は前年の新型コロナウイルス感染症の影響から回復傾向にあり、順調に進捗した。第1四半期の業績及び現時点での事業環境を踏まえて、2022年3月期業績予想を上方修正する。

[2022年3月期第1四半期連結累計期間決算]

（株）日清製粉グループ本社（社長：見目 信樹）の2022年3月期第1四半期連結累計期間につきましては、経済や生産活動に持ち直しの動きや、ワクチン接種の普及による明るい兆しはあるものの、国内においては緊急事態宣言等が発令され、依然、先行きが不透明な状況が継続しております。

このような中、当社グループは、小麦粉をはじめとする「食」の安定供給を確保し、各事業において安全・安心な製品をお届けするという使命に取り組み、その活動を支える従業員の安全確保に努めました。また、長期ビジョン「NNI “Compass for the Future”」で目指す姿の実現に向け、早期に販売力と収益力を回復させることを最優先課題として取り組みました。

当第1四半期の業績につきましては、売上高は、前年の新型コロナウイルス感染症の影響から回復傾向となった国内製粉事業及び中食・惣菜事業の増収や、海外製粉事業の小麦相場上昇や為替影響による増収があったものの、収益認識会計基準適用の影響による減収やペットフード事業の受託生産終了による減収があり、1,592億20百万円（前年同期比96.1%）となりました。なお、新会計基準適用影響を除くと実質増収（前年同期比105.0%）となっております。利益面では、海外製粉事業及び中食・惣菜事業等の増益により、営業利益は73億34百万円（前年同期比141.4%）、経常利益は88億31百万円（前年同期比136.6%）、親会社株主に帰属する四半期純利益は55億35百万円（前年同期比127.7%）となりました。

[2022年3月期通期連結業績予想]

新型コロナウイルス感染症の影響により当社グループを取り巻く事業環境は大きく変化しておりますが、早期に販売力・収益力を回復させることを最優先課題として注力しております。また、当社グループは、長期ビジョンの実現に向けて引き続きグループ一丸となって取り組んでまいります。

2022年3月期の業績見通しにつきましては、引き続き新型コロナウイルス感染症による事業環境への影響が不透明な状況ですが、当第1四半期の業績、及び現時点での事業環境を踏まえ見直した結果、上期及び通期の当初予想を上方修正し、通期予想は、売上高は6,700億円（前期比98.6%）、営業利益は292億円（前期比107.4%）、経常利益は313億円（前期比104.7%）、親会社株主に帰属する当期純利益は193億円（前期比101.5%）としております。

当期の配当につきましては、連結ベースでの配当性向の基準を40%以上とし連続増配により配当の上積みを図る基本方針のもと、当初の予想どおり、前期より2円増額の1株当たり年間39円を予定しております。